



二等議官高崎五六

國是確定ノ建議

4007



414
A 88

國是確定ノ建議



必其漸アリ是ヲ以テ知者ハ之ヲ未萌ニ防
テ發スル能ハサラシム臣竊ニ以為ラク今
日ノ形勢其禍冥々中ニ胚胎ス今之カ所ヲ
為サレハ後之ヲ悔ユ氏及フヘカラサル
ナリ如何トナレハ今ヤ外國交際日ニ開ケ
月ニ盛ニ制度文物皆彼ニ模倣セサルハ十

大正十一年四月
侯爵郵寄贈

レ全國ノ人民所學モ亦彼ノ道彼ノ術ニア
ラザルハ十レ其勢江河ヲ決スルカ如シ今
之ヲ禦ント欲スルモ亦不可得也然則彼ノ
所説皆非ナル乎曰ク然ルニ非サルナリ知
識ヲ開達シ技術ヲ精研シ舊ヲ去リ新ニ就
クノ大活法粲然具備ス必學ヒスンハマル
ヘカラス然リ而シテ竊ニ其禍ノ胚胎スル
所以ヲ論セン彼ノ國躰君主專制アリ君民

同治アリ共和政治アリ其他各國同シカラ
スト雖氏之ヲ要スルニ大抵此ノ如シ側ニ
聞ク彼ノ洋説ヲ信スル者或ハ一意心酔我
國躰ヲ忘レ心竊ニ共和政治ノ得失ヲ疑フ
者アリ或ハ之ヲ好ム者アリ或ハ之ヲ嗜ム
者アリト其情ヲ察スルニ未ク口ニ發スル多
カラスト雖氏心己ニ之ヲ信スル者寡カラ
ザルカ如シ易曰履霜堅冰至豈可不懼哉若

暗ニ國運交換シ百人心ニ之ヲ信シ千人心
ニ之ヲ信スルニ至レハ國勢陵夷復不可救
豈國家ノ一大变故ニ非スヤ故ニ今日ノ急
務我皇統一系ノ國躰ハ我國數百年外交
ニ陥リ自以テ獨立不羈國トシ無上至貴國
ト稱スト雖氏其實立チレハ徒ニ自名自稱
ノニ海外諸國ヨリ之ヲ見テ之ヲ論スル片
ハ何ノ名ヲ以テ目スルモ知ルヘカラス國
躰ヲ論スル者此ニ及求セズンハアルハ
力ヲ然リ而ノ日本ハ一種日本ノ國躰ア
リ則皇統無窮ノ如キ是也故ニ今姑ク其
景況ヲ以テ論スル片ハソノ躰タルヤ蓋君主

專權ニシテ其用ニ發スル君民同治ノ風ヲ
ルカ如シ願クハ政府其然ル所以ヲ講究シ
万世不抜ノ國是ヲ定メ今日ノ急務
彼万国ト並立ノ實効ヲ立テスハアルハ
力ヲ並立ノ實効ヲ立テスハアルハ
スハニ國躰ヲ保フヘシ其名ノ確定スルカ
如キハ公議輿論彼共和政治等ノ國躰ト異
ニ決シテ可ナリ
十ル所以ヲ揭示シ以テ全國人民ヲ其方
向ヲ定メシムルニアリ臣竊ニ以テク國
ノ如ク明カトシテ泰斗ノ如ク尊カラシ
ムル固ヨリ政府三職ノ任ナリ三職ノ責ナ
リ故ニ彼ノ長ヲ取リ我ノ短ヲ補フ皆皇
基ヲ培養シ皇室ヲ堅固ナラシムル方

法ニシテ國躰名分ニ至テハ始メヨリ然
不可易ノ條件ヲ掲示シテ太政官ヨリ全
民ニ之ヲ布告シテ之ヲ説諭スル者或ハ
留學生徒カラシテ屹然方向ヲ定メテ
ハアルヘカラス政府先如ク此ノ布告説
加フルヲ夫為主ハ造父ノ如ク萬民ハ奔
未十リ夫主人ハ造父ノ如ク萬民ハ奔
如シ造父東西ヲ指示セサルハ馳驅奔逸
クハ廟堂能ク其然ル所カラス前知シカ
防ヲ為サントハ了ルヘカラス前知シカ
モコノ弊ヲ洞知シテ之ヲ歎息シテ千八
十二年十一月十三日第二號ノ新聞中皮
吸収力ノ論ニ曰ク今日日本書生等大躰ヲ
ラ方論ヲ誤リ諸國ニ散布シ人ニ隨意ニ

學術ヲ唱ルハ其弊救フヘカラス至
リ後來日本ノ國躰ニ關係スヘント云ヘリ
外國人スラ之ヲ憂ル如此況ヤ内國ノ人
於テヤ真ニ流涕太息スヘキナリ豈悚然
寒心ヲ為サヤ自古我國躰君臣ノ分畧屹
ルヘケンヤ
セリ今新ニ之ヲ論スルモ却テ國躰ヲ傷
カ如ク雖氏制度世ト共ニ移リ人心勢ニ隨
テ變ス方今百度萬國ニ模倣スルノ日獨
ノ取ルヘキ者ヲ取ルノミナラス若其方向
ヲ失ノ萬世又變スヘカラサル者或ハ之ヲ

變スルアラハ復之ヲ救フノ術アルヲ知ラ
ス是臣カ窮言極論忌諱ヲ憚ラサル所以ナ
リ今國會議院ヲ設ケ全國ノ代議人ヲ召集
スルモ彼ノ國躰ハ我國躰ト大ニ異ナル所
以テ議シ我政治ヲシテ全國ノ衆知ヲ合セ
上下一致ノ政ヲ施シ以テ皇統不朽ノ國
躰ヲ維持セントスルニアリ政府亦深ク此
ニ注意セスルハアルヘカラス否ラサレハ

今日隱然醸ス所ノ禍必數年ノ久ヲ待テ發
スルヤ必セリ其禍發シテ然メ後之ヲ救シ
ト欲ス氏能ハサルナリ故ニ今大針砭ヲ下
シ其病根ヲ療セスルハアルヘカラス其病
根ヲ療スルノ方法如何請フ其大躰ヲ論セ
ン一ニ曰ク君權民權ノ分畧ヲ屹立スルニ
アリ二ニ曰ク天下ノ學術ヲ正フニ内外ノ
辨ヲ明ニスルニアリ如何トナレハ上下ノ

權利立サレハ國是定ラス國是定ラサレハ
魯英米佛其他万国ノ道ヲ講究スル者大躰
ヲ忘レ方向ヲ誤リ敦厚ヲ失シ浮薄ニ陥リ
其他駁雜ノ弊百出所謂弊ノ又弊不可救ニ
至リ後止ントス學術ヲ正フニ内外ノ辨ヲ
明ニセサレハ國躰立タス國躰立タサレハ
假令國名ヲ存ス氏其實十キニ至ル其實十
ケレハ國ノ名ヲ下スヘカラス故ニ即今ノ

要スル所君臣同舟難ニ遇ワカ如ク薪ニ坐
シ膽ヲ嘗メ日夜勵精國勢ヲ振興セスニハ
又ルヘカラス論者徒ニ萬國ト對峙スルヲ
論スト雖氏其輕侮ノ實ニ居ルヤ久シ臣子
ノ分豈久ク屈下スルニ忍ヒンヤ天下ノ勢
溜ニ日ニ下リ洋學ノ弊既ニ前ニ論スルカ
如シ故ニ先我學術ヲ正フセスンハアールヘ
カラス之ヲ正フセサレハ其弊ヤ恐ラケハ

國家ヲ破ルニ至ラシキ學術ヲ正フシ内外ノ
辨ヲ明ニスル政府固ヨリ其責ニ任セサル
ヲ得ス雖然到底是文部ノ任ナリ文部ノ責
ナリ維新以來己ニ歲月ヲ經ルト雖氏其事
業ノ舉カルヲ見ス政府其然ル所以ヲ思ヒ
然ル所以ノ方法ヲ盡スヘシ然ノ後己ニ發
スル所ノ學則ニ基キ速ニ大中小ノ學校ヲ
四方ニ基布シ教師ヲ精選シ凡教師ハ外国
人本国人ヲ論

セス始メ是ヲ雇フ時或ハ之ヲ命スル時我
國躰ニ背カサルノ規則ヲ立テ之ニ由ラシ
メ之ヲ踏ミシムヘシ若シ之ニ背ク時
ハ之ヲ退クベシ之ヲ退クヘシ全國戶
ノ學ハサルノ人ナカラシムヘシ是ニ於テ
外人ニ内外ヲ辨シ名義ヲ明ニシ廣ク知識
ヲ海外ニ求ル丁モ亦得ヘキナリ自古賢哲
治道ヲ論シ人才ヲ育スル皆曰ク學校ニ在
リト雖然是積累久キニ非サレハ其成功ヲ
見ル丁能ハス故ニ世々其説ヲ迂濶ナシテ

顧ル者アルヲナシ臣モ亦以テ其然ルヲ知
リ日夜焦思スト雖氏外ニ善策略アルニ非
ス亦唯其古人ノ糟粕ヲ拾フニ過キサルノ
ミ前説ノ如キハ世人臣ヲ以テ洋説ヲ惡ミ
之ヲ拒ムトスルヤ必セリ其然リ豈其然ラ
ンヤ我國數百年外交ヲ絶テ鎖國ヲ以テ國
躰ト為シ僅ニ支那アルヲ知テ萬國ノ文明
アルヲ知ラズ故ニ今日ニ至ルニテ其所為

所守支那隋唐ノ餘習ヲ墨守シ不識々々固
陋ニ陥リ舊株ヲ守リ自以テ足レリトス真ニ
惑フ甚シト云フヘシ方今外國交際如此開
ケ制度文物如彼備ハル我ヲ以テ彼ニ比ス
レハ不及萬々也是ヲ以テ先國躰ヲ立テ内
外ノ辨ヲ明カニシ然ノ後彼ニ採ルヲアラ
ハ何ヲ學フ不可ナラン何ヲ變スル不可ナ
ラン何ヲ模擬スル不可ナランヤ速ニ君臣

大非常ニ奮發シテ非常英斷以テ非常ノ政
治ヲ行ハスンハアルヘカラス臣唯其所憂
全國ノ人彼ノ糟粕ヲ食ヒ道ニ聽キ塗ニ説
キ一犬虚ヲ吠ヘ萬犬實ヲ傳ヘ天下ノ勢不
可言ニ至ラシテ嗚呼此弊今年之ヲ不救
以明年ヲ救フヘカラス徒ニ其禍ヲシテ
大具深カラシムルノミ夫往事ヲ回顧スル
ニ癸丑以來天下ノ人萬國ノ形勢ヲ知ラス

輕舉妄動攘夷ヲ唱ヘ之カ為メ上下紛乱殊
殺ノ権匹夫ノ手ニ落干無辜ヲ戮シテ快ヲ
稱シ一時殘酷至ラサルナシ然リ而シテ昔
日攘夷ノ人今日靡々洋説ニ阿従スル十二
八九昔日勤王ノ志心昔日攘夷ノ鐵心地ヲ
掃テ在ルナシ何ソ昔日強ニシテ今日弱
ナルヤ之モ亦世變ノ恐ルヘキヲ徵スルニ
是ル豈廟堂悚然寒心ヲ為サ、ルヘケンヤ

右臣管見言卑ク論淺シ固ヨリ其幾微ニ
當ラサルヲ知ル雖然凡國家ノ事寸ハ寸
ヲ盡シ尺ハ尺ヲ盡サスンハマルヘカラ
ス故ニ敢テ狂妄ヲ憚ラス之ヲ建議ス冀
クハ其能ク之ヲ裁定アラントテ謹言

明治六年三月

二等議官高崎五六

議長

閣下

副議長

